

令和4年9月5日

2021年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 かなざわご近所コラボプロジェクト

代表者・役職名 氏名 代表 水本協子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

寄り添いの地域防災 わが家の防災と避難準備【モデルケース集】

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

昔ながらの「ご近所さん付き合い」を現代風にアレンジし、地域コミュニティの再構築と熟成、住民や域外の応援者との交流、ピアサポートの関係づくりをめざしています。地域に誇りと愛着を持ち、仲良く安心安全で暮らすための事業(地縁型・課題解決型・テーマ型)を展開。あんずのまちづくり、こども食堂支援、新名物や地図づくりの他、金沢市や他団体との協働事業も推進。2011年設立。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

金沢のまちなかに位置し、住宅・事業所・商業施設・文化施設・寺社などが立ち並び、一人暮らしや三世帯同居など、多様な人々が暮らす地域です。域内には犀川や用水、細く曲がった路地、古い木造建物やビル、幹線道路や抜け道があり、災害時における混乱と被害が予想されます。中でも地下には森本富樫断層帯が走っており、専門家から「いつおこっても不思議ではない」と言われるほどの地震リスクとなっています。住民から家庭事情に応じた防災や避難準備に関する情報が求められています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ◆住民アンケート調査「あなたのおうちの防災や避難準備を教えてください!」/家族構成や住居形態等が異なる30家庭を対象に調査。実践している防災・避難準備と、参考モデル・意見・課題・気づき・提案を報告紙で見える化し、知識と知恵を共有。
 - ◆防災用品の展示/小学校との「防災クイズカフェ」で、防災を身近に感じられるグッズ・非常用持ち出し袋・避難所設備を展示。
 - ◆講座・ワークショップ/被災地支援の経験をもつ講師のお話と、住民アンケート調査結果から意見交換と提案を行いました。
 - ◆実施報告・情報共有・意見交換/地域活動・会合の場で報告。
- *別紙の報告紙「わが家の防災と避難準備」をご覧ください。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- 結果…アンケート調査：30 家庭が協力（総数 72 人）、講座・ワークショップ：5 名（コロナ禍で人数制限）、実施報告：校下町会長会議で報告（33 名）、報告紙は都度コピーして配布。
- 成果…アンケートでは半数以上の家庭が防災・備蓄品・避難時の準備が不十分だと感じ、当事業が準備する好機になったという声が寄せられました。コロナ禍の中、アンケート調査により住民間の情報共有とピアサポートが実現できました。
- 効果…地域と取り組んできた「地域防災プロジェクト」の継続につながりました。他地域より遅れている自治防災組織の整備と活動推進が動き出すことになりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

- ◆『ついで』に参加できる防災事業を開催
住民が集まる行事や会合と共同し、「来た『ついで』に参加してみよう」と思える気軽な事業を実施。避難訓練、停電体験、防災食カフェ、ローリングストック料理など、住民のリクエストに応じた企画を行います。報告紙は PDF と印刷物にして活用します。
- ◆自治防災組織による地域ぐるみの訓練が可能に
自治防災組織の整備が進むことで、これまで住民レベルでは難しかった大規模な避難訓練や避難所運営の研修などが可能になります。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



ご近所さんにお聞きしました。

寄り添いの地域防災 わが家の防災と避難準備

ライフスタイルや価値観の多様化・少子高齢化・コロナ禍・避難形態の多様化など、さまざまな社会環境の中で、「自分や家族構成に応じた非常時の行動や準備を知りたい」という声が増えてきました。ご家庭で役立つ防災知識と知恵を共有して、地域全体の防災力アップをめざします。

実施内容

●あなたのおうちの「防災」や「避難準備」を教えてください!(アンケート調査)

令和3年(2021年)12月～4年(2022年)2月 / 中村町校下にお住まいの30家庭に「防災」「避難準備」に関するアンケート調査にご協力いただきました。

●専門家の講座、ワークショップ(実態調査・意見・提案のまとめ)

令和4年(2022年)3月 / 被災地支援の経験をもつ講師のお話とアンケート調査結果から、意見交換と提案を行いました。

●「防災クイズカフェ」で防災用品を展示

令和4年(2022年)3月 / コロナ禍で活動が制限される中、中村町小学校と地域住民の恒例イベントが実現。子どもたちが防災を身近に感じられるように防災グッズと非常用持ち出し袋を展示しました。

●実施報告・情報共有・意見交換

地域活動・会合・イベントの場で報告。地域全体で防災を考える機会を増やしていきます。



もし災害がおきたら?



アンケート結果 1-ご家族とお家について

Q1 何人家族ですか?家族構成と年齢は?

人数や年齢から次の9つに分けることができました。

1:1人(中高年)	4軒	6:2世代(中高年～子ども)	3人=1軒、5人=1軒
2:1人(青壮年)	1軒	7:2世代(中高年)	3人=2軒
3:2人(中高年)	10軒	8:2世代(中高年～青壮年)	3人=4軒、4人=2軒
4:2人(青壮年～子ども)	1軒	9:3世代(中高年～子ども)	5人=1軒
5:3人(中高年)	1軒		*ペットがいる家庭:2軒(ねこ)

Q2 ご家族の特徴(一部)

- 子どもたちは県外在住。
- 身体の都合がある。(視覚障害や聴覚障害など。)

Q3 お住まいの町名と地域の特徴は?

- 増泉 7軒 町会人数が多い。高齢者が多い。アパート・マンションが多い。事業所と集合住宅が多い。
- 神田 1軒
- 御影 5軒 企業が多い。会社が多く、駐車場もある。準工業地帯。家の前に用水が流れている。雪国には助かる。
- 中村 6軒 マンションやアパートも多い。前面道路の幅が若干狭い、4メートル程度で車のすれ違いは困難。
- 白菊 2軒 準工業地帯。
- 千日 7軒・西側～含む 親切で協力し合う住みやすい町会。昔からの近所付き合いがある。皆さんが超高齢。少子高齢化。犀川べりの町会。路地が細く曲がりくねっている。交通量が多い。

Q4 お住まいの住宅は?

- 一戸建て 23軒
- 集合住宅(1～2階) 1軒
- 集合住宅(3階～) 4軒

Q5 住宅の特徴は?

木造2階建て・3階建て。木造2階建てで耐震構造になっている。鉄筋コンクリート3階建て、耐火耐震。築30年余り。築60年の町家指定(金澤町家)。店舗併用住宅。階段に手すりを付けている。中庭があるので出口が多くある。



うちはどんな準備をしたらいいの?

2-ご家庭で実施している「防災」「避難準備」について

Q1 【室内の備え】で実施していることは?

●家具の転倒・落下・移動を防止する対策、耐震の対策

- 家具の転倒防止 空箱、滑り止めシールを利用。天井と家具をつっぱり棒で固定。耐震ゴムを家電の下に敷いている。食器 棚の扉が開いて食器が飛び出してこないようにフックを取り付けている。テレビを壁掛けにしている。テレビには転倒防止シートを使用。
- 家具の配置の工夫:倒れることを想定して配置。寝室や寝床の頭部に倒れそうな家具は置かない。大型家具(タンスなど)は1階の床張りのフロアに設置。
- 器物の落下防止:上のほうに物を積まない。高いところに物を置かない。家具は自分の身長より低いものを置く。大型の棚は置いていない。

●火事(出火・延焼)を防止する対策

- 火災報知器・煙感知器の設置:各部屋に火災報知機を付けているご家庭もあった。
- 消火器の設置:台所に消火器を設置。簡易消火器を1・2階に複数設置。
- オール電化 オール電化住宅で火の使用はほとんどない。オール電化で蓄電池を備えてある。電気はエコキュートを使用、エアコンを使い過ぎるとブレーカーが落ちることがある。
- 火の管理 台所以外で火を使用しない。ガスの元栓を切っておく。コンロにマイコンメーターの安全装置を付けている(10分、30分ごとにお知らせベルが鳴る)。ガスはダイニングルームのコンロのみ使用(おしゃべりガイドで安全装置が働く仕組み。)灯油のストーブは使用しない。ファンヒーターの周囲に洗濯物などを干さない。ストーブ等のそばに物を置かない。台所にバケツ1杯の水を常備。
- 家の構造など ガラス戸に針金を入れてある。台所と洗面所は二重窓にしてある。家の外に蛇口がある。
- 建物内の設備 マンション内の共有部に消火器と消火ホースなどが設置されている。

●その他

- 停電になったときのために、灯油のストーブを置いてある。
- 防犯のため、ガラスに3Mのフィルムを貼ってある。
- セコムと契約。

Q2 【室外の備え】で実施していることは?

●地域の特性・危険度・地形を知る

- 古い家が多い。住宅地。
- 平日は商用車・大型運送車両・宅配車両の出入りが多いため、災害時には慌てて道路に出ないように心がけている。
- 屋根からの落下物に注意する
- 犀川が近くにある。自宅は工場跡地のため地盤がしっかりしている。
- 水没する危険性があるので、家を建て直すときに盛土をした。
- 地域のハザードマップなどの確認。災害マップを見ている(水害・地震・断層を知る)。
- 水害よりも地震が恐ろしいので、その対応を日頃から話し合っている。

●その他

- 地域で連絡先など詳しくまとめて、情報共有できたらいい。
- 定期的に避難訓練が必要。

Q3 【物の備え】で実施していることは?

*寄せられた内容を集約。ご参考にして、家庭とに必要なものをご用意ください。

災害のための備蓄(食料・生活用品・防災用品・個々の必需品)*自宅避難する場合

水系

飲料水(ミネラルウォーター、天然水)、生活用水用、水タンク、折り畳み式のバケツ

食品系

缶詰、乾物、レトルト食品、カップ食品、好みの菓子、野菜ジュース、粉もの(ホットケーキの素)、オートミール

調理器具・食器系

カセットコンロ・ボンベ、キャンプ用品(炊事も可能)、わり箸、紙コップ、ナイフ、スプーン、サランラップ

家電系

スマホ、充電器、携帯ラジオ、電池、発電機、延長コード、懐中電灯

衛生系

コロナ対策用品(マスク、除菌シート、手指消毒液、体温計など)、口腔・身体の清潔を保つためのもの(石鹸、歯磨き、液体歯磨き、体拭き、水のいらないシャンプーなど)、ファブリーズ、おむつ(幼児用・おとな用)、簡易トイレ・凝固剤など、トイレペーパー、ティッシュペーパー

健康系

めがね・コンタクト用品、入れ歯・ケア用品、医薬品・常備薬・個人の薬・お薬手帳や明細・絆創膏

衣服系

下着、タオル、頭巾、ヘルメット、スリッパ

居住系

レジャーシート、アルミシート

備品

文具(ペン、マジック、はさみ、メモ用紙など)、ガムテープ、ビニール袋

貴重品

お金(現金)など

- リックひとつにまとめている。
- 水2リットル×6本入り×4ケースを備蓄し、減ると補充している。
- ローリングストックの実践。食料は普通に食べている物を多めに備蓄しながら食べている。昔の教えで、梅干を備蓄している。生活用品も多めに買って回している。
- 気分転換のためのトラップを入れている。
- 車のガソリンはなるべく切らさないようにしている。
- ライフラインの復旧が一番大事。行政の危機管理ができているか。

Q4

【コミュニケーションの備え】で実施していることは?

●家族で「防災」「避難準備」について話すことがある

●家族と、非常時の約束事・連絡方法・集合場所などを決めている

- 外の家族についてはケータイ・スマホで安否を確認するしかない。状況が落ち着いたら県外の子どもに連絡する。県外の親戚と連絡し合う。
- 非常時の各自が各自の持ち出し袋を持って、避難場所に行くこと。
- 一次避難所と二次避難所を話し合っている。町会指定の集合場所を確認する。津波・洪水のときの高台の避難場所を打ち合っている。
- 集合場所を決めている。集合場所は石野病院屋上、アピア金沢屋上している。最終避難場所は中村町小学校にしている。中村町小学校のグラウンドに集合予定。中村町小学校・中村町善隣館・泉中学校に避難。
- 困ったときや助けが必要なときは小学校か公民館に行くことになっている。
- 災害に関する報道が随時ある。今回のアンケート調査が家族と話し合う機会になった。

●防災情報を収集している、防災活動や避難訓練への参加している

- 地域の防災活動に参加。公民館の防災講座に参加。機会があるときはなるべく参加している。
- 新聞・雑誌・メディア・インターネット・講演会などから情報収集。
- 金沢市の資料を参考にしている。
- マンション内の防災訓練への参加。
- 職場での情報交換や活動への参加。

●その他

- 高齢のためコミュニティへの出席はできないので、情報誌などで知ることができたらいい。
- 避難場所でプライバシーが保護できるスペースの運営をイメージできるように訓練したらいい。
- 空腹は我慢できるが、トイレは我慢できない。トイレが大事。
- 誤情報に気を付ける(ニュース、SNS、電話など)。
- 家族の都合によっては多人数の集団での行動はとれない場合がある。担当医などと相談して家族で対応することになる。地域の方のご支援もお願いしたい。

3-「防災」「非常時」の知識と行動について

Q1 ご家族が知りたいテーマや項目は?

- 個人で準備しておくのが望ましいものと、自治体で準備されているものの範囲。
- 水・電気の確保。
- 避難所でのコロナ対策。
- ご近所の連携。
- 非常時に自治体から発出される情報の取得方法。
- 校下全体・エリアごと・町会ごとの防災講座や避難訓練。
- 災害がおこったときに地域内の連絡網や行動の流れの整備と周知。

非常用持ち出し袋の準備

*避難所で避難する場合

水系

飲料水、水筒、水タンク、折り畳み式のバケツ、ウォーターバッグ

食品系

お菓子(ビスケット、チョコレート、あめ、保存のきくクッキー、乾パン、防災用パン、ようかん)、栄養機能食品(カロリーメイトなど)、レトルトカレー、お米、レスキューライス(白米・わかめご飯・五目ご飯)、ペットのご飯

調理器具・食器系

カセットコンロ・ボンベ、キャンプ用品(炊事も可能)、わり箸、紙コップ、ナイフ、スプーン、サランラップ

家電系

スマホ、充電器、携帯バッテリー、携帯ラジオ、電池、懐中電灯、ライト(ラジオ付き)

衛生系

コロナ対策用品(マスク、除菌シート、手指消毒液、体温計など)、口腔・身体の清潔を保つためのもの(石鹸、歯磨き、液体歯磨き、体拭き、水のいらないシャンプーなど)、ファブリーズ、おむつ(幼児用・おとな用)、簡易トイレ・凝固剤など、トイレペーパー、ティッシュペーパー、救急用品

健康系

めがね・コンタクト用品、入れ歯・ケア用品、医薬品・常備薬・個人の薬・お薬手帳や明細・絆創膏

衣服系

下着、タオル、ハンドタオル、頭巾、帽子、ヘルメット、スリッパ、軍手、カッパ(雨具)、レインコート

居住系

レジャーシート、アルミシート、レスキューシート

備品

文具(ペン、マジック、はさみ、メモ用紙など)、ガムテープ、ビニール袋、レジ袋、新聞紙、笛、蓄光ホイッスル、「防災かなざわ」冊子

貴重品

お金(現金)など

- 持ち出しバッグを準備してある。賞味期限の長い水と食べ物を準備してある。ガスコンロのカートリッジ缶を準備してある。
- 避難グッズが入ったリュックを用意している。(防災グッズ、2～3日分の食料ストック。)
- 気分転換のためのグッズを入れている(トラップなど)。
- 持ち出し袋を準備していないので、今回のアンケート調査をきっかけとして準備する。

参考資料



首相官邸ホームページ
「災害に対するご家庭での備え
～これだけは準備しておこう!～」

災害に備え、ご家庭で取り組むべき主な対策

- 家具の置き方 工夫していますか?
- 飲料・食品などの備蓄 十分ですか?
- 非常用持ち出しバッグ 準備できていますか?
- 安否確認方法 決まっていますか?
- 避難場所や避難経路 確認していますか?
- 関連お役立ちサイト
- もしものときの情報収集



例 食料・飲料・生活必需品などの備蓄

飲料水3日分(1人1日3リットルが目安)／非常食3日分の食料として、ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど／トイレトイレットペーパー、ティッシュペーパー・マッチ、ろうそく・カセットコンロなど

- 人数分を用意しましょう。
- 大規模災害発生時には「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。
- 飲料水とは別にトイレを流したりするための生活用水も必要です。日頃から水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておくなどの備えをしておきましょう。

例 非常用持ち出しバッグの内容

飲料水、食料品(カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど)／貴重品(預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など)／救急用品(絆創膏、包帯、消毒液、常備薬など)／ヘルメット、防災ずきん、マスク、軍手／懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器／衣類、下着、毛布、タオル／洗面用具、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ

- 人数分を用意しましょう。
- 乳児がいるご家庭はミルク・紙おむつ・ほ乳びんなども用意しておきましょう。



アンケート回答からクローズアップ!

モデルケース+ご参考

家族数・年齢構成・家族の特性などでモデルパターンを作ろうとしましたが、特徴や違いが見られませんでした。そのため、みなさんの参考になる事例を紹介します。



Aさんの場合 家族は2人(ともに70代)・住まいは高層マンション2階(耐震構造)

【物の備え】*ふだんの生活で使っている機器や用品は記載されていません。



非常用持ち出し袋
丈夫な素材のリュック。自分が担ぎやすい大きさと重さを考えよう。



笛とミニライト。自分の居場所を知らせる笛は役立つアイテム。



簡易スリッパ、新聞紙、トイレトイレットペーパー、ティッシュペーパー。



衛生系の用品。多様なアイテムをコンパクトに収納している。



手軽な食品、コロナ対策用品、寒さを防ぐ簡易ブランケット、カイロなど。

災害のための備蓄
*自宅で避難する場合

水系 飲料水(ミネラルウォーター、天然水)

食品系 缶詰、レトルト食品、カップ食品、好みの菓子、野菜ジュース、粉もの(ホットケーキの素)、オートミール

調理器具・食器系 カセットコンロ・ボンベ

家電系 電池

衛生系 コロナ対策用品(マスク、除菌シート、手指消毒液、体温計など)、口腔・身体の清潔を保つためのもの(石鹸、歯磨き、液体歯磨き、体拭き、水のいらぬシャンプーなど)、簡易トイレ・凝固剤など、トイレトイレットペーパー、ティッシュペーパー

- 日頃からローリングストックを実践。SDGsの観点を取り入れて楽しく取り組んでいる。
- 手軽に調理できる粉もの、野菜不足を補うためのジュースなど、食品の選び方に工夫がある。
- 「好みの菓子」の備蓄は、災害時でも気持ち少し安らぐ役割を果たすと考えられる。
- できるだけ清潔を保つように衛生系の備蓄品が充実している。



お金(小銭)。公衆電話や買い物で使う他、硬貨は厚手のビニールを切るときにも役立つ。

非常用持ち出し袋
*避難所で避難する場合

水系 飲料水

食品系 お菓子(ビスケット、チョコレート、あめ、保存のきくクッキー、乾パン、防災用パン、ようかん)

調理器具・食器系 コロナ対策用品(マスク、除菌シート、手指消毒液、体温計など)、口腔・身体の清潔を保つためのもの(石鹸、歯磨き、液体歯磨き、体拭き、水のいらぬシャンプーなど)、簡易トイレ・凝固剤など、トイレトイレットペーパー、ティッシュペーパー

健康系 医薬品・常備薬・個人の薬・お薬手帳や明細・絆創膏

衣服系 下着、簡易スリッパ、軍手

備品 文具(ペン、マジック、はさみ、メモ用紙など)、ガムテープ、ビニール袋、新聞紙、笛

貴重品 お金(現金)など

- いざというときに持ち出せるように、リュックひとつにまとめている。
- リュックに入る量や持てる重さを考えて、持ち出し品を選んでいく。
- 食品はかさばらずに手軽に栄養補給ができるものを選んでいく。
- 持ち出し品の中でも、衛生系の備蓄品が充実。コロナ対策用品は避難所でも備蓄しているが、数が足りないことが予想されるため、各家庭で用意する必要がある。
- 避難所に行くまで、避難所に行っても、足元に危険な物が散らばっており、ふだんのように歩けないことが予想される。簡易スリッパは必要。

Bさんの場合

家族は3人(50代2人、70代1人)・住まいは一軒家(築30年、耐震構造)

【室内の備え】【室外の備え】



網入りガラス
ワイヤーを網の目状に入れている。火災時に割れてもガラスが飛散しにくくなっている。防火地域の建物は、建築基準法で防火対策をすることが決まりにっている。



充電式の懐中電灯
夜間の停電に備えて、1・2階の廊下に設置。明るさは3段階に変えられる。外すと懐中電灯として使える。

【物の備え】



食品系の備蓄(一部)
長期保存できる瓶入りの食品も備えている。手軽な調理にも活用できる。



飲料水
ときどき保存期限(日付)を確認することが大切。3人で2リットル×6本では少ないと感じている。生活用の水道水も備蓄しているが、量や保管について工夫が必要。



アイラップとサランラップ
ライフラインが止まったときの調理や衛生面など、アイデア次第でいろいろ役立つ。



BBQ用品
景品でもらったコンロ。アウトドア用品を非常時に活用しようという家庭が増えている。

外出時のミニ非常用持ち出し袋



帰宅困難になった場合を想定。ミニようかんやあめ、簡易トイレ、ミニ懐中電灯などを巾着袋に入れて持ち歩いている。濃い色のビニール袋は簡易トイレにも使える。百均の防災用品もチェックし、中身を整備中。

気づき～課題発見～意見交換～参加住民からの提案

みなさんの声は地域の宝の山!

●各家庭の防災への取り組みは、中村町校下が「災害に強いまち」になるための知恵やヒントが詰まっていた。半数以上のご家庭が備蓄品や非常用持ち出し袋を用意していないことがわかりましたが、それが地域防災を活性化する共通認識やポイントになります。

楽しく参加しやすい防災講座やイベントを企画開催

●住民が集まる行事とのコラボなど、「参加した「ついで」にやってみよう!」という気軽さで防災を知り、情報交換できる機会をつくりましょう。防災食カフェ、ローリングストック料理教室、停電体験会など、興味をもって楽しく参加できる企画を実施しましょう。

自分が住む地域の災害リスクを知ろう

●地形の特徴としては尾川や用水が流れているほか、地震を引き起こす「森本富樫断層帯」が地下に走っていることが挙げられます。2000年ごとにマグニチュード7.8クラスの地震がおこしており、次の2000年がすでに過ぎているため、専門家の間では「いつおこっても不思議ではない」と言われています。金沢のまちが阪神淡路大震災のような被害を受けると予想されています。

●過去に地域が浸水したり、新橋が流されたりといった被害がありました。想定できる自然災害に合わせた準備が必要です。

自分の家族や自分に合った防災と避難準備を考える

●赤ちゃんや小さい子どもさんがあるご家庭、身体の都合がある家族があるご家庭、日中は全員が外出しているご家庭など、家族構成・特徴、住宅や周辺の特徴は実にさまざまです。標準的な防災や準備品に「うちだったら、これが必要だね」というように、ご家庭の事情に合わせて備えていきましょう。

●家族一人一人に必要なものがあります。非常用持ち出し袋は、家族全員用と個人用の2種類を準備しましょう。

「食べる」こと、そして「出す」ことがとても大切!

●食品備蓄のコツに「ローリングストック術」があります。「備える～食べる～買い足す」といったローリングストックを実践しましょう。久しぶりに確認すると「賞味期限が切れていた!」ということも防げます。

●非常時でも「出す」ということを意識しましょう。簡易トイレや断水時に自宅トイレを利用した防災グッズなどを準備しましょう。



地域の皆様へ
ご協力・ご意見・ご提案をいただき、
ありがとうございます。

令和3年度「Shinjoプロジェクト」市民活動公募助成(採択事業)
寄り添いの地域防災 わが家の防災と避難準備【モデルケース集】
主催:かなざわご近所コラボプロジェクト
協働:中村地区ボランティアの会、中村町校下更生保護女性会、中村町校下防災士会
令和4年(2022年)3月作成
©かなざわご近所コラボプロジェクト・無断の複製・転載・複写は不可

